

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくば市福祉支援センターさくら		
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日 ～ 令和7年3月7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年2月18日 ～ 令和7年3月7日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援にあたる職員が多く、親子一人一人に丁寧に支援にあたることができる。	クラスの中で、状況を把握できていない親子がいないようにするための適切な職員配置を行っている。多くのクラスで役割を分担し担当者を決めながら親子についての支援を行い、クラス後もミーティングにおいて職員間で情報を共有するようにしている。	人員配置については、その日ごとに利用人数によって分担をフレキシブルに配置を考える。特に、職員の休みや別業務等で不在にするような時においては、適切に応援態勢ができるようにしたい。また、職員が多いことで支援の内容がバラバラにならないように情報を共有する機会を確実に設けていく。
2	親子通園であることから、保護者への助言ができる。子どもが事業所の活動で楽しんでいる様子を見て、保護者の安心感にもなっている。	保護者支援に力点を置くことから親子通園としているが、普段の家庭等での育児上の悩みや困りごとについて常にアンテナを張るようにしている。家庭等でのことを聞き取りながら今の発達の様子と一緒に確認し、助言をするようにしている。また、子どもの様子と一緒に見るなかで、保護者が子どものポジティブな面を捉えられるように意識している。	子どもの状態像を正確に把握することが的確な助言の前提でもあるので、職員のアセスメント力を高めていく。また、子どもへのかかわり方について一定の共通のかかわり方を職員間で共有するようにしたい。いずれも、内部研修を計画していく。
3	職員が多くいるなかで、会議や打合せ等で支援に関する情報を共有する仕組みがある。	クラスの時間の前後では、必ず事前の打合せと事後のミーティングを行っている。また、常勤の職員ばかりではなく曜日によって職員が違いため、月1回全体会議を設けている。	情報を共有する仕組みはあるが、必ずしも効率的効果的に使えているとは限らないので、情報の共有の仕方について改善を図りたい。共有する意味は何か、そのためにどのような内容を優先して話し合っていくのかを検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物や設備が古い。物の劣化と併せて、設備の配置等についての不便もある。	建物の築年数を考えると、経年劣化が生じている。また、当時の利用状況と違う現在の状況に設備が対応していない。	今後、事業を別の場所に移すことを考えると、建物や設備の大幅な改修はしづらいが、不便な箇所を確認しながら可能な工夫をして少しでも使いやすくなるように改善していく。
2	保護者会の活動の展開に対し、協力ができていることが限られていることと、きょうだい児の支援について手薄であること。	保護者会においては、昨今の支援の枠組みを変更してきたことなどから、利用者が多様な利用の仕方をするようになったなかで会の活動自体が縮小傾向にある。協力を求められる部分がおのずと少なく、お互いに手探りなところがあると思われる。きょうだい児については、コロナ禍を経て事業所の場の使い方の変化も影響している。	保護者会について、形を変えていく会の在り方を見守りながら、持続して運営していくことをお互いに相談できるようにしたい。きょうだい児については、場の創設が当事業所においてすぐに適しているとは思わないが、きょうだい児についての課題を別の形でできないか検討したい。
3	非常時等の対応について、周知が確実にされていないこと。	事業所として必要な訓練を実施したりマニュアルを整えたりはしているが、利用者が曜日ごとの利用で違うため、全体に行き渡るようにできていない。	訓練の実施曜日を選ぶなど、少しでも多くの利用者に経験してもらおうことができるようにしたい。また、訓練に漏れた利用者にも、書面や懇談会等で想定している対応を周知していく。